特集

複雑化する社会問題の正と負の両面を押さえる

―― 2013年度入試に向けて「小論文対策研究会」まとめ

小論文の問題では、社会問題が課題文などを通して多く用いられる。しかし、近年の社会問題は複雑化して解決困難になった。今の受験生に強く求められるのは、問題に対する正しい認識と論点の抽出だ。「小論文研究会」（主催：学研教育みらい）で講師を務めた大堀精一（本誌監修）が解説したポイントをまとめた。（構成／宇津木聡史）

12年度入試のポイントはグローバリズムと震災

東日本大震災とグローバリズム。この二つが、12年度入試の小論文のポイントだった。では、次はどうなるか。

おそらく、東日本大震災については内容が深化し、もう一方のグローバリズムについては、格差や貧困というマイナス面だけではなく、プラスの面も含めた複雑な相を考えさせるパターンが多くなると思われる。

【形式面から見た傾向】

- 設問の数が多くなっている
- 課題文要約や下線部説明などテーマ理解に重点を置く設問がさらに増えた
- 要約のトレーニングがさらに重要になった
- 一見、読解中心で現代文の試験に近づいたように見えるが、小論文は社会的背景・知識が不可欠で、この傾向は強まる一方
- 課題文の提示する問題が簡単に解決策を示せる内容ではない
- 受験生は、単純な裁断ではなく、価値の両義性を踏まえた理解がより必要となっている

国際化とグローバル化は質的に大きく異なる

近年の小論文で最も多く出ている中心テーマは、グローバル社会が生み出した格差問題など負の側面だ。今回の入試でも、経済格差や貧困をめぐる出題は、実に多かった。その流れの中で、社会における「承認」「無縁化」というテーマも目についた。

しかし、前回の入試から、プラス面を強調した課題文が出始めた。これから注目すべきことは、グローバル社会のマイナス面に加えて、グローバル社会の肯定的な面だ。グローバル社会が生み出したプラスの面とマイナスの面の両義性を見つめる視点が、これからの小論文では増えていくと考えられる。

グローバル化とは何か。簡単に言えば、今ある国家や地域などのタテ割りの境界を超え、地球が一つの単位になることだ。つまり、国境に関係なく、物事が地球的規模で展開するということだ。

昨今、「国際社会」という言葉はすっかり使われなくなり、それに代わって「グローバル化」という言葉が定着した。実は、国際化とグローバル化の違い、あるいは国際化からグローバル化への転換は大きな意味を持っている。

国際化とは、主に国と国とが交流することを意味する。目的は、人や物が移動することを通じて、世界中でさまざまな文化を学びながら豊かになることだ。その主役は国であり、自国と他国のつながりを深めることに主眼が置かれる。

一方、グローバル化の中心は企業だ。世界を動かすのは国でなく、企業であり市場となる。グローバル化の根本にあるのは、経済競争だ。世界のビジネスや投資、生産、消費などのシステムが、国家の枠を超えて広まり、有力企業は世界に次々に進出して激しい競争を繰り広げ、世界中が力のある者に従うようになっていく。国家の存在は、どうしても相対的に小さくなっていく。

このグローバル化の波が、冷戦の終結後に世界を席巻し、その波は日本にもやってきた。今の高校生も、この激しい競争を繰り広げるグローバル社会に、嫌でも出て行かなければならない。東京大学の濱田純一総長は、２０１２年度の入学式で、「よりグローバルに、よりタフに」という言葉を新入生に投げかけた。タフでなければ、厳しい競争が強いられるグローバル社会では生きていけないのだ。

グローバル社会における競争原理は、切磋琢磨するとか競争によって互いに成長し合うというイメージではない。相手を倒すまで果てしなく競う。それが今の競争原理の性質だ。

グローバリズムが持つプラスとマイナスの両面

このサバイバルの競争原理は、ある面で、社会を豊かにしてくれる。例えば、消費者に対しては、選択肢の多さやサービスの向上、価格高騰の抑制などをもたらす。例えば、ユニクロの服のように、ある程度の品質の商品を、ある程度の安さで提供してくれるのは、消費者にとってはとてもありがたいことだ。熾烈な競争原理は、社会的な豊かさを安く提供してくれる原動力になる。これがグローバル社会のプラス面だ。

では、なぜマイナス面が生まれるのか。それは、この競争は〝ほどほど〟で終わるということができないからだ。競争をやめるには、競合する相手をすべて潰さなくてはならない。ときには、資本を持っている者同士が結び付いて、スケールメリットで弱い者を次々に倒していく。まさに弱肉強食の世界。この競争が続くと、食う側と食われる側との格差が大きくなり続けていく。

また、競争が熾烈になると価格を高くできなくなり、コスト削減の傾向が強まる。すると、人件費を下げようとする力が働き、社員の給料の抑制や人員削減、そして正社員の採用を減らして非正規雇用者で不足分を無駄なく調整しようとする企業が増える。

今、大学生が必死に就職活動を

【グローバル社会の誕生から現在まで】

冷戦の終わりがグローバリゼーションの始まり

第２次大戦後、世界は自由主義と社会主義の２大ブロックに分割された

↓ 経済・軍事・宇宙開発・スポーツなどあらゆる分野で長い間、対立が続いた

1990 年初め、ソ連が政治政策の失敗で社会主義を放棄し「冷戦」が終わる

↓ 社会主義体制が消滅し、自由主義陣営が勝利する

アメリカ中心の自由主義の思想・文化・経済システムが世界を席巻し浸透

↓ インターネットの発達、金融規制の緩和で地球全体が市場となる

市場原理をベースにしたグローバリゼーションが展開され、現在に至る

豊かさと格差・貧困が背中合わせのグローバル社会成立。国家の役割縮小。

グローバル化はアメリカ的なものが世界に浸透することで始まった

例：ジーンズ、自動車、マクドナルド、コーラ、ポップミュージック、ハリウッド映画、ウインドウズ、iPhone、ディズニーランド……という名のグローバル商品

【競争原理（市場原理）の正と負】

プラス面	マイナス面
サービスの向上 性能の向上 保証の充実 価格の抑制 ポイントの付与	貧困 格差
↓	↓
消費者の選択幅が拡大 サービスの向上 価格が高くならない	競争と対立が激化 社会の中で格差拡大 貧困が増大

【グローバリズムの両義性】

貿易の拡大によって、日本のなかで以前よりも貧しくなる人が出てくることは事実だろう。その結果、日本国内の格差が拡大するかもしれないが、豊かな人から貧しい人に所得を移転すれば、貿易をしなかった時よりも日本人は全員豊かになれる。（中略）日本の格差や貧困問題が貿易によって拡大するという側面があっても、それは日本国内の社会保障制度や教育で解決すべきものではないだろうか。

（大竹文雄『競争と公平感』中公新書より
鹿児島大学・法文学部が課題文として採用）

しても内定が取れないのは、非正規雇用が増えているからだ。正社員と派遣社員の格差が広がっている背景には、実はグローバル社会の競争原理がある。

グローバル社会がもたらす問題は、豊かさと背中合わせになって深刻化するので、食い止めることがとても難しい。競争原理が私たちの首を絞めると分かっていながらも、ユニクロやマクドナルドに行くことはやめられない。

TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）の問題も同様だろう。日本が参加すれば、国内の農家は大打撃を受けるが、消費者からすればユニクロのような比較的高品質低価格の食品をスーパーで買えるようになる。

今後の小論文でグローバリズムを考える場合、このプラスの面とマイナスの面を正しく認識しておいてから、課題文と設問に取り組むことが重要となる。

やや深みに欠けた震災のテーマ

予想通り、12年度の入試の小論文は、震災に関わる問題が目立った。しかも、出題形式・レベル・分野などが幅広かった。ただ、今改めて読むと課題文の内容が、やや深みに欠けるものが少なくなく、これは震災が発生してから入試問題を作るまでに、半年ほどの時間しかなかったためだろう。13年度の入試は、震災をテーマにした出題は減るだろうが、その課題文の内容は深まると予想される。

次の入試では、震災被災地の復興が大きな焦点となるだろう。

今、被災地の復興状況が少しずつ伝えられ始めている。しかし、復興のドラマが報じられない地域は、がれきの処理も進まず、仮設住宅で暮らす人々の間では先行きが見えず、孤独死に近い状態も出ている。目に見えない放射線の影響で元の場所に戻れない人も多く、人口が減少し続けている地域では高齢化に拍車がかかっている。復旧はともかく、復興は地域主導で未来像を描くべきだが、この当たり前のことが実現できていない。

小論文で受験する生徒は、被災地の現状をきちんと理解し、復興にあたってはどのような論点があるのか、あらかじめ頭の中に入れておきたい。

ぜひ取り組んでほしいのは、福島大学人文社会学群（経済経営学類）の問題だ。分かりやすく復興についての論点を明示していた。三つの朝日新聞の記事が課題文として出され、一つ目は前岩手県知事で元総務相の増田寛也氏のインタビュー記事だった。増田氏は「地震で東北は深刻な人口減になるでしょう。高齢者の比率も上がる。もはや成長を前提にはできない。成熟社会を前提にした計画が必要です。自助、共助、公助でいえば、共助をベースとした医療や福祉のあり方を盛り込んだ復興計画をつくるのです」と語る。

また、被災者の心理的な苦しさも、小論文では見逃せない論点になるだろう。この点については、長崎県立大学看護栄養学部が取り上げた哲学者の鷲田清一氏の課題文が秀逸だ（左上）。鷲田氏は、自己のアイデンティティは物語性から生まれると考察し、「自分は何をするためにここにいるのか？こういう問いが、人それぞれのアイデンティティの核にある。これらの一つでも答えが不明になったとき、わたしたちの存在は大きく揺らいでしまう」と指摘する。

前回の小論文の課題文をいくつも読むなどして、被災地の復興と被災者の心の復興の両方について問題点がどこにあるのか、その所在を受験までに掴んでおきたい。

【人の物語を聴く重要さ】

子に先立たれた人、回復不能な重い病に侵された人、事業に失敗した人、職を失った人……。かれらがそうした理不尽な事実、納得しがたい事実をまぎれもないこととして受け容れるためには、自分をこれまで編んできた物語を別のかたちで語りなおさなければならない。人生においては、そういう語りなおしが幾度も強いられる。（中略）このたびの震災で、親や子をなくし、家や職を失った人びとは、こうした語りのゼロ点に、否応もなく差し戻された。（中略）けれども、語りなおしは沈黙をはさんで訥々（とつとつ）としかなされないために、聴く者はひたすら待つということに耐えられず、つい言葉を迎えにゆく。『あなたが言いたいのはこういうことじゃないの？』と。

（鷲田清一「＜隔たり＞は増幅するばかり　寄り添い、語りなおしを待つ」朝日新聞（朝）2011年6月11日より　長崎県立大学看護栄養学部が課題文として採用）

【震災関連の出題内容】

- 生の根源的な場所の喪失：地震、津波、放射能で奪われた土地や場所が持つ本質的な意味。土地を介した人々のつながりの破壊。
- 震災が日本経済に与えた影響：大打撃を受けた生産施設や社会資本など。生産力の低下と復興への巨額支出
- 原発事故と電力不足：電力不足による経済の失速と地球温暖化問題。科学技術のあり方
- 天災や防災の先人の警告：寺田寅彦「天災と国防」が出題
- 震災が人間心理に与えるもの：風評や被災地への後ろめたさ
- 医療従事者の被災地への関わり：あえて被災地の病院に応募する医師、医療従事者のドキュメントなど
- 間接的に震災を意識したもの：社会関係資本、新しい町作り、メディアのあり方、中央と地方の関係、希望の作り方など

原発事故で生じた電力不足問題

東日本大震災のテーマでは、当然、原発事故についても準備しておきたい。原発事故によって生じた社会的なテーマは二つの側面がある。一つは、放射能汚染を受けた地域に暮らす人々の今後の生活。もう一つは、原発停止による電力不足の問題だ。どちらも新たな展開が予想され、見通しは不確かだが、入試としての主力は現段階では後者の電力不足＝エネルギー問題だろう。このテーマは、ある程度の客観的なデータと歴史的な経緯から検証と推測が可能だからだ。

結論から言えば、原発事故による電力不足問題は、環境と経済の二律背反に帰着する。電力不足で起きる最大の問題は、日本経済の失速だ。エネルギーが少なくなれば、生産力が落ちる。生産力が落ちれば、グローバル競争に勝てなくなる。企業の競争力が落ちれば、失業者も増える。日本には、震災が発生するまで、54基の原発があった。原発がストップすると、日本全体の電力の約3割が失われる。九州電力、中国電力、関西電力、北海道電力では4割前後も失われる。経済を失速させないために、電力不足を解消しなくてはならない。どうするか。

シナリオは、二つある。一つ目は、眠っていた火力発電所の復活。実際、不足した電力の半分はこの方法で補っている。問題は、火力発電は大量の二酸化炭素を排出することだ。マスコミはほとんど指摘しないが、地球温暖化防止に関する国際的な取り決めの「京都議定書」が有名無実化している。日本の場合、「安全でクリーンなエネルギー」というキャッチフレーズの下に、二酸化炭素を排出しない原発の建設を推進し、温室効果ガスである二酸化炭素の量を削減する政策をとってきた。しかし、原発の「安全」が今回の事故で失われ、京都議定書を守るための前提も失われた。日本の社会は今、環境よりも経済を優先している。

もう一つのシナリオは、自然エネルギーや再生可能エネルギー、あるいは新エネルギーと呼ばれる風力発電や太陽光発電などで代替するという案だ。これらの電源は二酸化炭素を出さない。しかし、今の日本の電源構成比では、自然エネルギーは1％に過ぎず、今すぐには原発の代わりができない。

そこで原発の再稼動を求める声が出てくる。問題は、どのような選択が日本の将来にとってベターかということだ。答えは、それぞれの人の価値観にかかっているので、自分で出すしかない。

【なぜ原発を増やしたか？】

原発のキャッチ・フレーズ

「安全でクリーンなエネルギー」

原発事故

「安全」は通用しなくなってしまった！

それでは「クリーン」は……？

【原発停止による電力不足の解消】

〈シナリオ1〉

□ **眠っていた火力発電所の復活**

→有害ガス（温室効果ガス）の発生

→発電コストの増大＝電気料金の値上げ

〈シナリオ2〉

□ **クリーンな自然エネルギーで代替**

→使われている発電量が少ない

→現状では設置地域が限定される

？どちらも問題あり→原発を再稼動する？